

泉 坂東太郎・利根川

みなかみ町のおおみなかみやまの大水上山を源流とし、「坂東太郎」とも呼ばれる利根川。その流域は、群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都の1都5県にわたり、流域面積約16,840km²で日本一を誇ります。

●舟運の面影を残す利根川の渡船

江戸時代、上州(群馬)は利根川舟運(舟を使った交通や物資の輸送)の出発地でした。船の荷揚げ場で、問屋が並ぶ「河岸」は40カ所もあり、にぎわいました。明治以降、鉄道の開通とともに舟運はなくなりましたが、今も公道として残る赤岩渡船や島村渡船などに面影をしのぶことができます。



利根川により南北に分かれた境島村を結ぶ島村渡船(伊勢崎市道)



千代田町赤岩と埼玉県熊谷市を結ぶ赤岩渡船は利根川を渡る県道の中で唯一船で渡る公道

Topics 水の恵みあふれる群馬

水源地・群馬では、各所に名水・湧水が見られます。

昭和60年に選定された環境省の「名水百選」には、箱島湧水(東吾妻町)と雄川堰(甘楽町)が選ばれています。また、平成20年に選出された「平成の名水百選」には尾瀬の郷片品湧水群(片品村)や神流川源流(上野村)が選ばれました。これらは、地域の人々によって大切に保全されている群馬が誇る名水です。



約400年前の構築以来、地元の人々に守られてきた「雄川堰」



箱島不動尊境内の大杉の根元から湧出する「箱島湧水」

Topics 再生可能エネルギーの宝庫“電源群馬”

「上毛かるた」に「理想の電化に電源群馬」とうたわれる群馬県。戦後の工業化に伴って多くの水力発電所が作られ、火力発電が主流となる1970年頃までは県内の発電量が消費量を上回っていました。現在、県内各地でさまざまな再生可能エネルギーの導入が進んでいます。

●豊富な水を生かす「水力発電」と「中小水力発電」

日本一の流域面積を持つ利根川が流れ、水資源豊かな群馬県には多くの水力発電所があります。揚水発電所として世界最大級の出力となる神流川発電所(現在は一部運転中)など大規模な水力発電所のほか、農業用水や小さな河川を利用した小水力発電も盛んです。

県は公営電気事業者として32カ所の水力発電所を運営し、その数、供給電力量とも公営電気事業者として日本一です。

●長い日照時間を生かす「太陽光発電」

群馬県の年平均日照時間は常に全国上位! 平野部では冬の降雪も少ないので、太陽光発電施設が増えています。

平成25年に県が設置した板倉ニュータウン太陽光発電所(2,268kW)をはじめ、147カ所のメガソーラー施設が稼働しています(平成29年3月末時点)。

●森林資源や農作物を生かす「バイオマス発電」

県土の3分の2を森林が占める群馬県は、木質バイオマスの原料に恵まれ、平成23年には吾妻木質バイオマス発電所が営業を開始しました。木質チップ専焼発電所としては国内有数の発電規模を誇ります。



県営の水力発電所 小平発電所(みどり市)



板倉ニュータウン太陽光発電所(板倉町)



吾妻木質バイオマス発電所(東吾妻町)